

ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX072-872-2268

大東市・人権啓発ネットワーク大東の共催

大東市民・会員交流フィールドワーク

じゃくしゅう

若州

いってき

一滴文庫



みづかみ

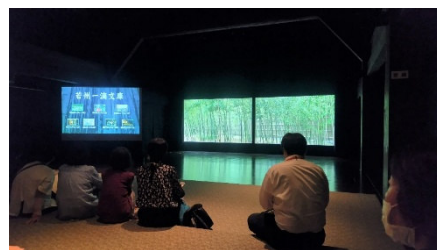
2026年6月25日、大東市民・会員交流フィールドワークが開催されました。訪問先は、作家・水上^{みづかみ}勉^{つとむ}氏が創設した「若州一滴文庫」(福井県おおい町)、参加者34名には、彼の波乱に富んだ人生と文学について知り、そして人権について考える貴重な機会となりました。

「苦勞の百貨店」が育んだ人権へのまなざし

水上氏は10歳で口減らしのため寺に預けられ、戦時中は旧満州へ渡り中国の人々に苦役を強いら^{くえき}れ、結核罹患^{りかん}で帰国後も直木賞受賞までに30種類以上の職業を経験するなど、人生はまさに「苦勞の百貨店」と称されるほどでした。そうした苦勞のひだを重ねることで彼は自分の作品にリアリティ豊かな表現を生み、やさしいまなざし^{しやうえん}で「周縁」「下」「裏」で生きる人々を描き、また社会派作家として原発問題、水俣病、部落差別、障がい者問題など、様々な人権課題に向き合い続けました。

くるま椅子劇場

竹藪^{たけやぶ}を背景にした舞台で、車椅子利用者にも配慮された設計がなされ、誰もが芸術に触れられる気配りに感銘を受けました。



本館

三階建ての伝統的な土蔵風建築^{どそう}で、バリアフリーの概念が一般的でなかった創設時(1985年)から、館内中心にスロープが設置され、利用者が主体的に参加できる場所となっています。彼の蔵書2万冊以上が収蔵され、自由に読書が楽しめ、ギャラリーでは、彼と共に活動した渡辺^{すなお}淳氏の絵画が企画展示されていました。



竹人形館

水上氏は地元の竹を使った竹人形文楽^{ぶんらく}を立ち上げ、約60体の竹人形と250点の人形頭部が展示され、職人の技と表現の多様性に触れることができました。



学芸員は、水上氏の生涯や作品について分かりやすく説明し、「この施設に水上氏の名前を冠してないのは、彼の文学を顕彰するだけでなく、より普遍的なメッセージを伝えたいから」と誇らしく語られました。今回のフィールドワークで多くの学びを得ることができました。（レポーターまっくん）

新連載



私のとなりは、 様々な世界

～多様な声に耳をすませば、まちがもっとあたたかくなる～

私たちのまちには、さまざまな国や地域から来た人たちが働き、暮らしています。話す言葉や食べるもの、習慣は違って、笑ったり、悩んだり、誰かを思いやる気持ちは同じです。

あなたのとなりの誰かの声に耳をすませてみると、まちはもっとあたたかく、優しくなっています。そして、あなたの世界が広がるきっかけとなることでしょう。

「ぬくもり」では、同じまちで暮らす人々の物語を取材し、一人ひとりの想いや生き方を通して、多様性と共生社会の大切さと、あたたかなつながりをお届けします。

第 1 回

「不完全でもいい」がくれた前進する勇気～地域とつながった留学生の言葉

本連載の第 1 回は、2025 年 2 月に開催された大東市ヒューマンコンサートの企画・運営を市職員や人権啓発ネットワークの委員らと共に担った、大阪産業大学の元留学生、ヨフェラ・ジャクシン・ロックマンさん（インドネシア出身）とキム・ミンジンさん（韓国出身）に、地域との出会いや日本での歩みを聞きました。

1 年経っても色あせない「自慢」と地域との出会い

2025 年 2 月のヒューマンコンサート「小さな鍵盤、大きな感動 ～トイピアノが奏でる癒しの物語～」は、大阪産業大学経済学部経済学部の菊地真理教授のゼミ生が初めて企画から運営までを担った取り組みです。その様子は「ぬくもり」第 35 号でも紹介しました。

このイベントで大活躍したお二人に、卒業と就職を控えた今年 1 月、大学にて当時を振り返ってもらいました。

市職員や人権啓発ネットワーク大東の委員らと一からイベントを創り上げた経験は、二人にとって大切な「地域との出会い」となりました。「最初は公務員の方って少し厳しいのか

なと思っていましたが、職員の皆さんや当日来られた市民の方々が本当に優しくて」と語るヨフェラさん。「私たち外国人が異国の日本で人権をテーマに地域のイベントを開けたことは、今でも貴重な自慢です」と微笑みます。キムさんも「日本で確かな足跡を残せた。私たちの挑戦がきっかけとなり、後輩たちへ機会を引き継いだことも本当に嬉しい」と胸を張ります。資料作成のアドバイスや自らの経験を伝え、二人の熱意はしっかりと後輩へと受け継がれました。



インタビューに答えてくれたヨフェラさん（左）とキムさん（右）

違いを知り、認め合う～日本での日常と文化の壁

二人の来日はコロナ禍の時期でした。2 週間の隔離生活やオンライン併用の授業など、決して平坦ではない幕開けでした。そんな困難に直面しながらも、キムさんは韓国人留学生委員会の役員や大阪韓国文化院でのアルバイト、ヨフェラさんは大学の赤十字ボランティアや大東市の子どもたちに勉強を教える活動、

大阪・関西万博のボランティアなど、前向きに行動の幅を広げ、地域や社会へ自ら飛び込んでいきました。

日常の文化の違いについて、ヨフェラさんは「母国と比べ、日本の人間関係の距離感や遠回しな断り方に当初は戸惑ったが、今では文化の違いとして慣れた」と語ります。一方、激しい受験・競争社会の韓国で育ったキムさんは、「韓国は常に実績を求められ息苦しい面もあるが、日本は個人の経験やポテンシャルをじっくり見てくれる心のゆとりがあり、すごく良いと感じた」と振り返ります。

「不完全でもいい」を胸に、日本での次なるステージへ

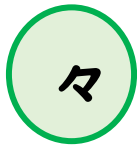
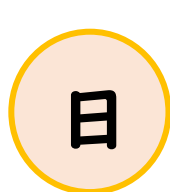
コンサートで共感と呼んだ「(トイピアノのように) 不完全でもいい、未完成でもいい」という言葉、そして地域と笑顔でつながった成功体験は、社会人となる二人の大きな支えとなっています。

再生エネルギー企業に就職するキムさんは、「ゼロからやり遂げた自信が就活の支えになった。将来は日韓だけでなく、世界全体に良い影響を与えられる人になりたい」と力強く語ります。接客・サービス業へ進み、新たな土地へ移るヨフェラさんは、「人生は毎日が不完全。そう考えれば、何があっても前を向ける。仕事を通じて多くを学び、楽しく歩みたい」と笑顔を見せます。

言葉や習慣の違い、コロナ禍の^{ぎゃっさよう}逆境を乗り越え、地域と笑顔でつながったかけがえのない経験を胸に、二人は新たなステージへ大きく羽ばたいています。(レポーター：かわかず)



インタビューの全文はこちらでご覧いただけます。→
← 「ぬくもり」のバックナンバーはこちらから



雑 感

人前で話したり、多くの人が読む文章を書いたりするときに、いつもどんな言葉を使うかについて考える。聞く人、読む人にとって、わかりにくい表現をすることは避けたい。しかし砕けた表現では伝えたい内容が軽く伝わってしまう可能性がある。特に、人権という視点で、差別につながる表現・言葉になっていないかを気にする自分がいる。

過去に部落問題学習の研修会で当事者の方が、「部落」という言葉を使わなければ差別がなくなるというものではない。むしろ、「部落」という言葉を差別をなくすためならどんどん使ってほしいと話された。納得した。

障がい理解学習においても「障がい」という言葉を使わずには学びそのものが表現できない。だから正しく使うことを意識している。

一方、日常的に使う言葉で漢字で表すと身体の一部を使った言葉がある。「めざす」や「めあて」のひらがな表記は最近ではあたりまえに使われるようになってきた。

しかし、まだまだ言葉はたくさんある。ひとつずつ考えていくにはきりが無い。そんなときに一冊の本と巡り合った。解放出版社 おとなの学び研究会編 「ことば・表現・差別」再考 だ。

答えがあったのとは少し違うが、わたしの中のもやもやは少し晴れた。

一人で答えを出さなくてもよいと感じた。言葉の表現を封じ込めるのでは、当事者抜きの思考停止になる。そのことについて、話し合える関係づくりが大切であり、その中での学びが必要だと感じた。

これからは、その本を紹介することを通して、話せる人を増やすことができればと思う。これからもまだ、自分の中のもやもやは消えないだろうと思う。でも、それでよいのだと感じている。

(レポーター：きむさん)

地域集会へのお誘い

今年度のテーマは、「多様性への理解と共生」です。



地域集会は、市民の皆さんがふれあい、出会う場として、また、人権の大切さを学び、考え、意見を交換する場として、市・人権啓発ネットワーク大東・自治区の共催で、各公民館等で実施しています。

2026 年度は、多様性への理解と共生をテーマに DVD『君の景色を知ったとき～それは、誰にとつての当たり前?～』を上映し、懇談会を行います。

障がいのある人や外国人、子どもやお年寄りなど、多くの人にとっての「当たり前」に不便を感じる人がいると気付くこと、そしてそれを人の力で支え合うことの大切さを知り、「ともに生きる」社会の実現について考える作品です。

年齢属性を問わず、共に助け合える『だれもが人権尊重される社会』を実現するためにも、地域集会に参加していただくことで日常生活の中で心がけることを改めて考えていただくきっかけになると思います。

すでに何か所かの自治区で「地域集会」は開催されていますが、今後も多くの地域で開催されます。ご参加希望の方は、広報誌やホームページなどで日時・場所をお確かめください。



大東市ホームページ（地域集会について）→



★ 会員募集

人権意識をたかめるための研修会などへの参加・参画。
人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。
会費等はありません。

★ ヒューマンライター募集

大東市で人権推進につながる取り組みを行っている方々の
取材をしていただける方（ヒューマンライター）を募集します。

ぬくもりネットだいとう
マスコットキャラクター



はぴくる

【応募方法】様式は問いません。

ご住所 お名前 電話番号を記載の上 郵送、FAX をお願いします。

〒574-8555 大東市谷川1-1-1

大東市役所（市民生活部 人権室内）

人権啓発ネットワーク大東事務局

TEL：072-870-0441

FAX：072-872-2268

Facebook(フェイスブック)

人権啓発ネットワーク大東の活動がみなさんに届くよう、Facebook
ページを開設しました！ぜひ、フォローお願いします！

（Facebook で「人権啓発ネットワーク大東」を検索！⇒）

